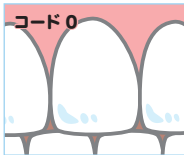


むし歯(う蝕)の進行

むし歯(う蝕)とは、
歯の硬組織の表面が細菌の酸産生により崩壊し、
エナメル質やセメント質から象牙質へと進行し、
実質欠損(穴)を形成する病気です。

う蝕は以下のように進行しますが、
早期に対応すれば進行を止めることができます。

進行停止・再石灰化可能

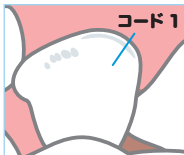


コード0

①健全な歯

歯に着色や摩耗(擦り減り)があっても実質欠損(穴)がなければ健全と判定します。

(コード0)



コード1

②エナメル質の変化

歯を乾燥すると白い部分がある。

(コード1)

歯が濡れた状態でも目で見える白い部分がある。

(コード2)

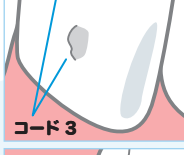


コード2

③エナメル質の崩壊

エナメル質の一部に穴が空いたり欠けたりしている。

(コード3)



コード3

④象牙質が黒く透けて見える

エナメル質は残っているが、象牙質が黒くなり、色が透けて見える。レントゲンでう蝕の広がりを確認する必要がある。

(コード4)



コード4



コード5

⑤著明なう蝕

エナメル質が無くなり、象牙質が目に見える。

(コード5)

大きく穴が空き象牙質が目に見える。

(コード6)



コード6



新潟大学
医歯学総合病院

詳しくは当院の歯科医師・歯科衛生士にご相談ください

3種類のむし歯菌が
お口の中にどれくらいいるかわかります

う蝕関連細菌検査

食後に必ず磨いているのにむし歯になる。

なぜ? 私の歯はむし歯になりやすいの?

むし歯予防に何をすれば良いかわからない。

むし歯になりやすい 原因を知って予防する



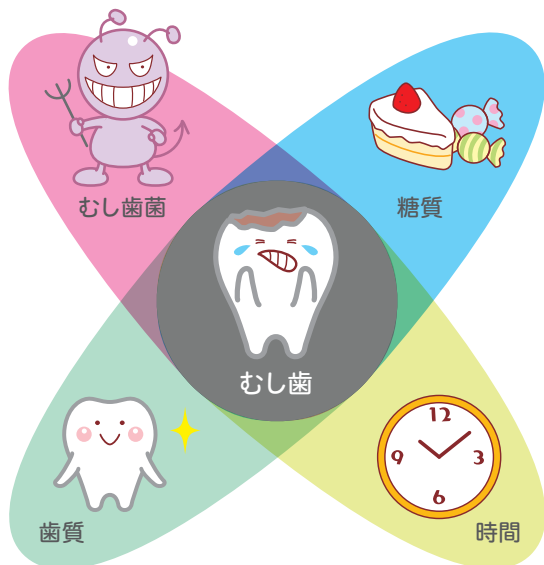
監修: 新潟大学医歯学総合病院 う蝕予防管理システムWG

検査受託: 株式会社 ジーシー

※掲載の情報は2022年6月現在のものです。

むし歯の発生

むし歯の原因は、
さまざまな要因が絡みあっています。



リスク因子

- むし歯菌の量が多い
- 唾液が少ない
- 糖質の過剰摂取

疾患指標

- 3年以内の歯科治療
- エナメル質病変
- ホワイトスポット

防御因子

- 唾液が多い
- 抗菌剤の使用
- フッ化物の応用
- シーラント
- 効果的な食習慣



脱灰 進行

再石灰化 進行停止

脱灰と再石灰化のバランスが崩れると、
むし歯が発症・進行します。

検査の流れ



痛みもありません

1 問診と口腔内診査

- 食事の内容と飲食回数
- 毎日の歯磨きの方法
- これまでに治療した歯の数など



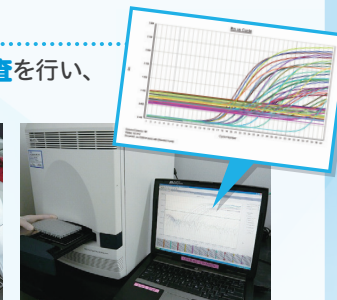
2 唾液の採取

ガムを噛んで唾液を出してもらいます。



3 検査

検査センターでPCR検査を行い、
細菌を検出します。



4 検査結果の確認

わかりやすく表示した検査結果をお届けします。

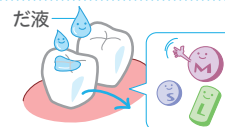


検査結果の必要性・重要性

① ミュータンス菌 ② ソブリナス菌 ③ ラクトバシルス菌

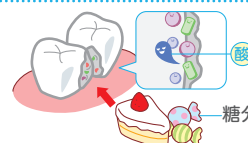
1 デンタルバイオフィルム(プラーク細菌叢)

通常、脱灰と再石灰化は平衡状態



2 糖の摂取(リスク因子)

バイオフィルムの微小環境が
酸性ヘシフト



3 むし歯菌の増殖

耐酸性能のある菌(むし歯菌)が
選択的に増殖



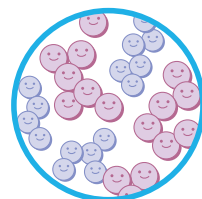
4 検査

ジーシーサリバチェックラボで
菌(むし歯菌)を調べることが
できます



検査できる菌種

ミュータンスレンサ球菌[2菌種]



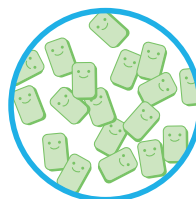
Streptococcus mutans

ストレプトコッカス・
ミュータンス

Streptococcus sobrinus

ストレプトコッカス・
ソブリナス

乳酸桿菌(にゅうさんかんきん)



Lactobacillus

ラクトバシルス

歯を溶かす酸を多く作ります。酸性環境でも増えるため、口の中が酸性の時間が長いと、ミュータンスレンサ球菌の割合が多くなります。また、この2菌種が同時に存在すると、う蝕のリスクが高くなります。

う蝕(特に二次う蝕)から高い頻度で検出されます。う蝕の進行に関与しており、酸をつくり、酸性環境でも増えます。